

評価報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画(1
見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源と	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 平成 19年 7月 20日
 調査実施の時間 開始 10時 00分 ~ 終了 14時 30分
 訪問先事業所名 グループホームはあと
 (都道府県) 鹿児島県
 評価調査員の氏名 氏名:前田 和文 氏名:安徳 ケイ子

事業所側対応者
 職名 管理者
 氏名 森元美隆
 ヒアリングを行った職員 (2)名

項目番号について

外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価報告概要表

作成日 平成 19年 7月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4670300674
法人名	特定非営利活動法人 なごみの森福祉会
事業所名	グループホーム はあと
所在地	鹿児島県鹿屋市横山町1974番地3 (電話)0994-31-9101
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成19年7月20日

【情報提供票より】(19年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	7人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.2 人

(2)建物概要

建物構造	木造		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	300 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 88.5 歳	最低	76 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	宮園クリニック	おばま病院	小林クリニック	ひがし歯科
---------	---------	-------	---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者とのコミュニケーションに力をいれて、一人ひとりに寄り添い信頼関係を作り上げる努力を大事にしている。利用者ができる事はできるまで待つ、あるいはできるように声かけしたり、見守ったりする関わりを心がけている。「グループホームに入ってから、家で出来ていたことが出来なくなる事は悲しくて辛い事です。出来ていたことはこれからも出来るように、出来なかったことが又出来るように……」これを、はあとの管理者・職員のモットーとし利用者本位のケアに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	契約書や重要事項説明書に権利や義務が分かりやすく明記され、説明・同意を得る改善の取り組みができています。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	主に管理者が自己評価している。職員の意見も聴いて、参考にしてはいるが全員で自己評価に取り組むことが今後の課題である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	現在までに3回実施している。家族代表・市職員・民生委員出席のもと、ホーム概要を説明し、理解してもらい事に重点をおいて取り組んできた、今後、徐々に第三者としての意見をもらうようにしていく計画である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	平成16年以来、不満や苦情等に関する家族からの意見はほとんどない状態である、しかし今後は小さな不満や苦情等も記録し、対応し、運営に生かす取り組みに努める計画である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	月、1回ゴミ捨て場の掃除をしているが、地域との交流は十分とは言えない。運営推進委員会を通して地域との連携を深められるよう、図っていく計画である。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域での安心した暮らしができ、気持ちに寄り添い、自分の家であると思えるように一緒に生活するための柔軟な支援を事業所の理念の柱においてある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内の玄関口・台所等に掲げ、又、職員は家に持ち帰って習熟され、共有している。日々、理念の実践に向けて、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園・小学校の運動会・星塚敬愛園の夏祭りには毎年、参加している。民生委員と老人会長の訪問がある地域との交流はまだ少ない。管理者は地域の高齢者福祉に尽力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が職員の意見を聞いて評価している。外部評価の結果も全員で確認し、改善するように努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年9月に第1回目を実施し、3回目は市、全体で実施した。7月31日には包括支援センターと共に実施予定である。		定期的実施されるよう、期待したい。行事に抱き合わせる等、形はかえても充実した運営推進会議の目的に沿うものとなる工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市役所に足を運び、地域密着担当者と関わりを持って「認知症のケアと予防について」講演を開く機会を作っている。又、管理者は町内会の福祉の会や高齢者サロンに出向いて支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりについてはホーム便りで、健康状態や金銭管理については面会時や電話で報告している。預かり金台帳には面会時にサインをもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情の申し出方法は玄関に掲示したり、入居時に説明しているがほとんど無に等しい。苦情受付簿にも平成16年以来、記録も見受けられない。		リスク回避の為にも些細な事でも記録に残す事が大事である。不満・苦情を吸い上げる工夫としてアンケート等を利用して意見反映につなげる取り組みが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者は毎年あり、利用者へのダメージは避けられないが、引継ぎの時間を十分とり、スムーズに移行できるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月、1回は学習会を実施している。年1回以上は外部の研修に勤務時間内で全員参加できる体制を作っている。介護者の為のストレスマネジメント研修も実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの職員と一緒に勉強会を開催している。同業者同士の交流は良くできていて、サービスの質向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	大半は入居する前にグループホームに来てもらい、本人・家族が納得した上での入居となる。(緊急に利用開始になる特例もある。)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する、される関係でなく、一緒に暮らす家族という感覚のケアである。体力的にできる利用者と共に生活すべてをするように努めている。(ラジオ体操・散歩・食事作り・かたづけ・三味線・折り紙・紙創作品作りなど)		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時や居室など1対1になった時、意向の把握に努めている。利用者が言えない時は家族に本人の生活暦等を聞いて検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	頭の整理箱(全国ケアプランネットワーク)にそって、利用者の状態把握に努め、管理者と職員がサービス担当者会議をもって、利用者本位の介護計画を作る。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に、評価を行い、現状に即した新たな計画を作成するよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応している。短期入所も実施されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の意向をふまえながら、かかりつけ医を決め、定期的を受診している。受診が重なるときは家族の支援をもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師がいなくて現実問題として難しい面もあるが、重度化した方に対するケアについては全員で検討を進めている。今までに終末期ケアの経験はない。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような言葉かけや対応に対してはその都度、注意してきた積み重ねがあり、改善されている。(方言でのコミュニケーションが受けいられている。)相手の目を見て、コミュニケーションを図るとくみに注意をはらっている。個人情報については研修し、又、同意書をもらっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れはあるが時間を区切っていない過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながらその時の本人の気持ちを尊重しながらできるだけ個別性のある支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立てから調理まで利用者の意思、気持ちを大切に進めている。菜園で採れた食材や冷蔵庫の食材を使って一緒に調理されて、食事を一日の大切な活動の一つにしている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで雰囲気作りも大事にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後2時から実施しているが柔軟性をもって対応している。利用者の入浴は週、2～3回が多い。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域の保育園・小学校の運動会に参加したり、又、ホーム来園者との交流の楽しみができています。希望にそって地域の理容・美容・お店を利用し、馴染みになりつつある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	金銭感覚のある利用者には一緒に買い物に行って、支払いを自分でしてもらったり、散歩したり畑に出たりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関には鍵はかけられていない。出入りにあたってはチャイムがなるようになっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練・避難経路の確認・夜間想定防災訓練を実施している。マニュアルも作成し、非常ベル・煙探知機・消火器の常備もできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎日チェックして確保できるよう支援されている。栄養士の専門的な観点からのチェックができていない。		地域の栄養士や保健師等に定期的に点検してもらい改善の取り組みが望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症を和らげる快適な壁紙のデザインを取り入れ、フロアの飾りつけは季節に応じて壁飾りをかえ、季節感を出している。広いスペースでゆったり感がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置は利用者の意向にそって置かれている。利用者個々に応じた居心地の良い居室づくりができています。		